
JAグループ広島営農通信

今回紹介する内容

■ 米穀情報

米穀情勢 平成 30 年産米等の作付動向について
J A グループ米穀事業における具体的な取り組みについて
パールライス工場 精米 H A C C P 認定取得について
ひろしま米の広報・P R 活動について

■ 園芸情報

園芸情勢 青果物の販売経過および情勢見通しについて

■ 営農情報（肥料・農薬情報）

水稻流し込み施肥（流入施肥）による追肥法について
除草剤を活用した畦畔管理の省力化について

■ 農機情報

平成 30 年度中古農機モデルフェアの開催について（ご案内）



お問合せ先は下記までお願いします

営農支援室（電話 082-847-4706）

改革推進課（電話 082-847-4701）

1. 平成30年産米等の作付動向について

農林水産省は、平成30年産における各都道府県の主食用米、戦略作物等の作付動向について、第2回中間的取組状況（平成30年4月末現在）を取りまとめました。

主食用米は前年産実績と比べ、増加傾向6県、前年並傾向34県、減少傾向7県となっており、依然として模様眺めの産地が多く見受けられます。

戦略作物等は前年産実績と比べ、備蓄米は31県が減少傾向、飼料用米は東日本を中心に22県が減少傾向となっています。

○平成30年産の作付動向

	主食			備蓄米			飼料用米		
	増加傾向	前年並傾向	減少傾向	増加傾向	前年並傾向	減少傾向	増加傾向	前年並傾向	減少傾向
北海道・東北地区	4	3	0	0	0	6	0	1	6
関東地区	0	9	1	0	0	7	1	3	5
北陸地区	1	3	0	0	0	4	2	0	2
東海地区	0	3	0	0	0	3	0	2	1
近畿地区	0	4	2	0	0	1	1	4	1
中国四国地区	1	6	2	0	1	5	2	3	4
九州・沖縄地区	0	6	2	0	0	5	3	1	3
計	6	34	7	0	1	31	9	14	22

※農水省の資料を基に作成

特に、備蓄米については、主食用米価格の上昇により産地の取り組み意欲が薄れ、年間買入枠20万トンに対し、第6回までの累計落札数量は118,833トン（前年同時期落札数量197,322トン）と低調な取引が続いており、米価の回復基調を背景に、主食用米への切り替えが進んでいると推察されます。

2. JAグループ米穀事業における具体的な取り組みについて

○需要に応じた米の計画生産・計画販売

⇒生産現場に対し、需要に基づく生産提案を実施します。

⇒JAで生産・集荷・販売計画を取りまとめ、生産・販売推進を行います。

⇒小ロット・多品目の製造が可能なパールライス工場新精米ラインを活用し、地域の特色ある商品開発を目指します。

○実需者との契約に基づく買取への移行

⇒計画生産を基盤とした買取の推進により長期安定的取引を実現し、確実に販売まで結び付けを行います。

⇒手取りの早期確定（出来秋一括払い）を行い、経営安定化につなげます。

○実需者への直接販売

⇒JAと全農で「JA米販売専門チーム」を結成し、販売推進を行います。

3. パールライス工場 精米HACCP認定取得について

全農広島県本部「パールライス工場（東広島市）」は、2018年3月28日に食品衛生管理の国際基準であるHACCP手法に基づいた工程管理システム「精米HACCP」の認定を取得しました。

～「精米HACCP」とは～

通常のHACCP方式に加え、日本精米工業会によって定められた「精米HACCP規格」に基づき、精米工場全ての原材料及び工程・製造機器・施設に対してマニュアルの作成や管理基準を設定し、安全・安心な製品を提供することを目的とした精米工場に特化した工程管理システムです。



食品業界においては、先進国でHACCPの義務化が進んでいることや、訪日客の増加もあり、国際レベルの食品衛生管理体制を整えることを目的に、食品事業者のHACCP導入を義務付ける食品衛生法の改正について検討されています。

※2020年の東京五輪大会までの施行を目指し検討

精米HACCPの認定については、全国の手廻り精米工場（米穀卸）を中心に、現在75工場（66社）が取得しており、今後、大手量販店・中食・外食等への販売を行う際に、この精米HACCPの基準を満たすことが納品条件となることが想定されます。

JAグループ広島の精米工場として、小ロット・多品種の商品製造に加え、精米HACCP規格による徹底した管理のもと、安全・安心で高品質なひろしま米を消費者へお届けするとともに、JAの精米販売の拡大や、地域ブランド商品の開発を行ってまいります。

4. ひろしま米の広報・PR活動について

JAグループ広島では、産地と食卓を結ぶ「JAの結び米」の取り組みの一環として、県内10箇所で開催しています。



お問い合わせ先 JA 全農ひろしま 米穀総合課 082-431-5450

青果物 平成30年5月の販売経過

5月の日本の天候は、気温は全国的に高く、東日本と沖縄・奄美ではかなり高くなりました。北・東・西日本では降水量が多く、北日本日本海側ではかなり多くなりました。沖縄・奄美では、降水量がかなり少なく、日照時間はかなり多くなりました。

そのようななか、広島県本部の青果物の取扱状況は、平成30年5月末累計の卸売市場仕向けについては、出荷重量1,544t（前年比99%）、販売金額676百万円（同99%）となりました。また、単価については438円（同99%）となり、累計ベースでは前年比と同様な推移となっています。

■全農広島県本部の販売状況（平成30年4月～平成30年5月累計）

	数量		金額		単価	
	(t)	前年比	(千円)	前年比	(円/kg)	前年比
野菜合計	1,544	99%	676,464	99%	438	99%
アスパラガス	105	136%	158,224	121%	1,500	88%
青ねぎ	344	103%	148,212	102%	431	99%
トマト	304	106%	118,568	102%	389	96%
ほうれんそう	119	94%	53,834	95%	453	102%
わけぎ	93	82%	44,808	65%	483	79%
小松菜	202	114%	40,567	113%	200	99%
きゅうり	203	100%	39,169	87%	192	86%
豌豆	29	725%	30,901	941%	1,055	124%
きぬさや豌豆	7	100%	10,404	96%	1,597	110%
青梗菜	27	93%	7,572	88%	280	96%
その他葉茎菜類	18	82%	7,074	90%	386	106%
レタス	29	62%	4,189	62%	146	102%
その他根菜類	10	45%	3,999	56%	382	117%
えのき茸	13	59%	2,614	56%	195	90%
たまねぎ	16	46%	1,437	41%	92	94%
ジャンボピーマン	3	75%	986	90%	304	99%
白ねぎ	4	400%	864	281%	225	92%
キャベツ	11	157%	834	100%	78	66%

※全農広島県本部の主要品目別市場出荷実績

◆ 5月単月の概況

【数量】

○小松菜（111%）、トマト（108%）、アスパラガス（104%）は、前年度の単月を上回る出荷数量でした。 ※（ ）は前年度比。

※豌豆は前年単月比で400%となっている。これは今年の出荷開始が1ヶ月遅れたため。

○葉物野菜を中心に、3～4月に出遅れた生育を取り戻すかのように出荷が回復しましたが、5月においては端境期となり、やや低調に推移しました。

○特にわけぎ（82%）、ほうれんそう（87%）は前年単月比で著しく減少しています。

※（ ）は前年度比。

○5月単月の総出荷量は858tとなり、前年比95%と昨年を大きく下回っていますが、全般的に生育は順調に推移していると思われますので、今後は回復基調になる見込みです。

【金額・単価】

○5月単月で全体の平均単価は452円/kgとなり、前月420円/kg よりも平均単価は回復基調となりました。

○背景には3～4月にかけての葉物野菜が潤沢に市場へ出荷されたことによる低調な販売から、やや回復してきたものと思われます。

○5月単月の出荷量は前年と比較し、43トン減少しました。葉物野菜が中心に減少したものと思います。また、単月の販売金額は388,280千円（前年比97%）で終了しました。

◆ 6月見通し

（1）入荷量の見通し

6月の主要野菜（14品目）の入荷量は、平年を上回る水準と見込まれます。

「平年を上回る」と見込まれるのは、だいこん、はくさい、ほうれんそう、白ねぎ、レタス、きゅうり、ばれいしょの7品目です。

「平年を下回る」と見込まれるのは、にんじん、なす、ピーマンの3品目です。

「平年並み」と見込まれるのは、キャベツ、青ねぎ、トマト、たまねぎの4品目です。

（2）卸売価格の見通し

6月の主要野菜（14品目）の卸売価格は、平年を下回る水準と見込まれます。

「平年を上回る」と見込まれるのは、なすの1品目です。

「平年を下回る」と見込まれるのは、だいこん、にんじん、はくさい、キャベツ、青ねぎ、レタス、きゅうり、ピーマン、ばれいしょ、たまねぎの10品目です。

「平年並み」と見込まれるのは、ほうれんそう、白ねぎ、トマトの3品目です。

○品目別の入荷量、卸売価格の見通しは以下の通り。

品 目	6月の入荷量		6月の卸売価格		(参考) 前年6月の主産県シェア (%)
	平年比較	(参考) 前年比較	平年比較	(参考) 前月比較	
だ い こ ん	◇	=	▼	◇	広島(28) 山口(22) 長崎(20) 青森(9)
に ん じ ん	▼	=	▼	▼	長崎(74) 熊本(24)
は く さ い	◇	◇	▼	◇	長野(49) 大分(39) 山口(4)
キ ャ ベ ツ	=	◇	▼	=	鹿児島(19) 熊本(16) 宮崎(13) 大分(12)
ほ う れ ん そ う	◇	◇	=	=	広島(95)
青 ね ぎ	=	=	▼	=	広島(69) 大分(9) 福岡(6) 愛媛(5)
白 ね ぎ	◇	◇	=	=	鳥取(50) 大分(33) 輸入(11)
レ タ ス	◇	◇	▼	▼	長野(92) 群馬(5)
き ゆ う り	◇	=	▼	=	広島(26) 佐賀(22) 宮崎(20) 熊本(13)
な す	▼	▼	◇	▼	福岡(49) 佐賀(19) 熊本(19)
トマト(ミニトマトを除く)	=	=	=	◇	熊本(31) 広島(23) 島根(17) 宮崎(14)
ピ ー マ ン	▼	◇	▼	▼	長崎(67) 熊本(15) 佐賀(5) 広島(5)
ば れ い し ょ	◇	◇	▼	=	鹿児島(86) 宮崎(14)
た ま ね ぎ	=	=	▼	◇	輸入(70) 熊本(18) 山口(5)
品 目 計	◇	◇	▼	=	

注：「平年」とは、直近5か年の平均値。

※この資料の内容は平成30年2月22日現在で見込んだものであり、気象条件等により変動することがあります。

※主要野菜の入荷量及び卸売価格の見通しのコメント及びグラフは平成30年5月31日中四国農政局園芸特産課の発表内容です。

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：トン

品 目	3月上旬		3月中旬		3月下旬		4月上旬		4月中旬		4月下旬		5月上旬		5月中旬	
	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比
だいこん	330	82%	377	106%	386	99%	366	96%	389	98%	346	93%	304	99%	377	110%
にんじん	211	95%	178	79%	166	74%	175	81%	280	101%	238	81%	195	79%	249	96%
はくさい	359	105%	359	107%	349	96%	359	116%	274	87%	237	78%	292	112%	259	101%
キャベツ	581	90%	602	95%	693	102%	617	96%	646	94%	570	85%	723	107%	657	95%
ほうれんそう	105	142%	68	116%	56	88%	55	106%	41	92%	44	106%	43	105%	44	81%
青ねぎ	50	99%	47	94%	59	112%	51	105%	54	109%	45	96%	50	114%	50	95%
白ねぎ	51	86%	38	73%	45	82%	37	88%	31	78%	23	68%	28	90%	25	83%
レタス	259	127%	314	149%	316	127%	214	93%	229	111%	203	99%	230	95%	254	97%
きゅうり	186	96%	195	91%	217	90%	266	116%	257	105%	240	90%	315	107%	258	84%
なす	53	88%	64	85%	78	96%	93	130%	96	114%	74	90%	93	96%	77	76%
トマト(ミニトマトを除く)	134	158%	118	140%	145	107%	150	119%	135	98%	131	78%	186	102%	201	101%
ミニトマト	46	144%	41	115%	54	128%	52	133%	52	112%	46	92%	67	126%	82	137%
ピーマン	55	103%	46	79%	57	80%	66	97%	63	86%	58	83%	71	104%	62	75%
ばれいしょ	331	109%	172	62%	343	109%	238	84%	276	97%	275	100%	241	82%	312	92%
さといも	26	99%	15	59%	18	74%	15	90%	13	79%	10	87%	10	135%	6	93%
たまねぎ	461	94%	303	63%	556	98%	407	76%	553	91%	423	86%	337	101%	357	103%

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：円/kg

品 目	3月上旬		3月中旬		3月下旬		4月上旬		4月中旬		4月下旬		5月上旬		5月中旬	
	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比
だいこん	158	220%	94	130%	75	102%	66	93%	62	90%	62	86%	61	76%	61	83%
にんじん	229	175%	240	191%	254	192%	235	160%	197	135%	191	149%	151	124%	110	91%
はくさい	140	184%	94	104%	86	108%	40	48%	46	51%	50	61%	46	60%	59	79%
キャベツ	181	213%	107	127%	98	117%	89	96%	94	99%	85	78%	79	69%	65	69%
ほうれんそう	352	86%	274	66%	353	94%	434	104%	563	101%	526	91%	432	91%	518	117%
青ねぎ	714	131%	515	103%	381	85%	357	85%	358	82%	386	82%	450	86%	436	84%
白ねぎ	351	117%	338	116%	329	114%	272	93%	304	92%	334	97%	410	108%	497	121%
レタス	193	106%	100	58%	99	66%	116	73%	119	64%	122	59%	125	68%	127	92%
きゅうり	294	88%	286	97%	256	99%	180	70%	159	55%	177	71%	168	78%	284	145%
なす	447	118%	426	123%	391	115%	339	96%	327	85%	352	94%	371	106%	396	115%
トマト(ミニトマトを除く)	344	80%	329	78%	323	81%	316	80%	313	82%	305	91%	318	103%	255	87%
ミニトマト	617	83%	525	72%	477	73%	482	80%	463	76%	479	86%	454	92%	318	68%
ピーマン	623	98%	566	95%	463	96%	358	91%	320	81%	338	80%	331	76%	292	86%
ばれいしょ	119	82%	117	76%	103	65%	105	60%	109	60%	116	60%	139	81%	133	77%
さといも	210	92%	204	97%	192	107%	181	91%	186	86%	227	95%	243	91%	338	88%
たまねぎ	113	108%	120	110%	108	100%	107	101%	97	97%	100	99%	96	94%	96	91%

資料：「広島市中央卸売市場日報」

注：平年比70%以下及び130%以上の数値に色を付けています。

水稻流し込み施肥(流入施肥)による追肥法

水稻の流し込み施肥法は、過去からある技術のひとつですが、圃場や水の条件によって効果の差が出やすくこれまで普及は限定的でした。しかし、近年、施肥コストの軽減や施肥量の多い多収米、飼料稲栽培での労力軽減を目的に見直されています。今回は、この流し込み施肥法について紹介いたします。

(1) 概要

流し込み施肥とは、液体肥料または固形の肥料を溶かした肥料溶液を灌漑水と一緒に流し込む追肥法です。液体肥料や肥料の溶解液、または固形肥料を水口にセットし、圃場全体に肥料を行き渡らせます。



(2) メリット

- ・**穂肥の省力化**: 水田に入ることなく追肥ができるため、動力散布機は不要です。
- ・**適期を逃さない穂肥**: 雨の日の施肥ができるので、穂肥のチャンスを逃しません。
- ・**低コスト化**: 市販の流し込み専用肥料の他に、尿素や塩化加里を用いた流し込み施肥ができます。特に、尿素は溶解性が高く、安価であり、低コスト化に有効です。
- ・**大区画水田に推奨**: 1ha以上の区画の水田でも実施されています。圃場の均平化を図ること、水口が複数あることによって、より精密に施肥することが可能です。
- ・**慣行施肥と収量差なし**: 適正な条件下で施肥を行った場合、慣行の施肥法と比較して収量、品質に差がありません。

(3) 流し込み施肥ができる水田の条件

- ①田面の均平度: 平らで、水口から水尻への落差が3~5cm程度が理想ですが、水尻側や途中が水口より高いなど不均平な水田は適しません。
- ②水もち: 減水深が10mm/日より少ない水田に適します。
しかし、減水深が15mm/日以上では、その値が高いほど施肥範囲が水口側に偏る危険性があります。したがって、この施肥法は漏水田やかけ流し水田には適しません。
- ③畦畔の高さ: 水尻側で8cm以上が良く、ネズミ穴などは事前に補修して水が漏れないようにします。
- ④施用面積: 灌漑施設が整備された水田で、1基の給水量が7m³/時程度以上が望ましく、この給水量で30a程度まで可能です。水口数が増えれば大規模水田にも適用できます。
- ⑤灌漑水: 1日で5cm以上の水深となるような灌水量が必要です。水質がひどく濁っている場合は、施肥が不均一になりやすいので適しません。



(4) 施肥方法

- ①施肥の時期: 施肥適期、施肥量は通常の場合と同様です。
- ②施肥直前の水深: 施肥前に排水をして、水口の水深が1~2cm程度です。
(水尻では4~5cm程度)の湛水状態にします。
- ③施肥法: 必要な施肥窒素量に相当する易水溶性肥料を用意して、水口から水を入れます。水量は1袋(20kg)が5~10分程度で溶ける程度を目安とします。



※簡易的流し込み施肥事例:

下記の図1のように、コンバイン収穫用籾袋を利用し、肥料をゆっくり溶かすため、籾袋を三重にし、コンテナを用いて水口に設置します。コンテナを波板で囲い、肥料と用水が混ざるように流路を作ります。

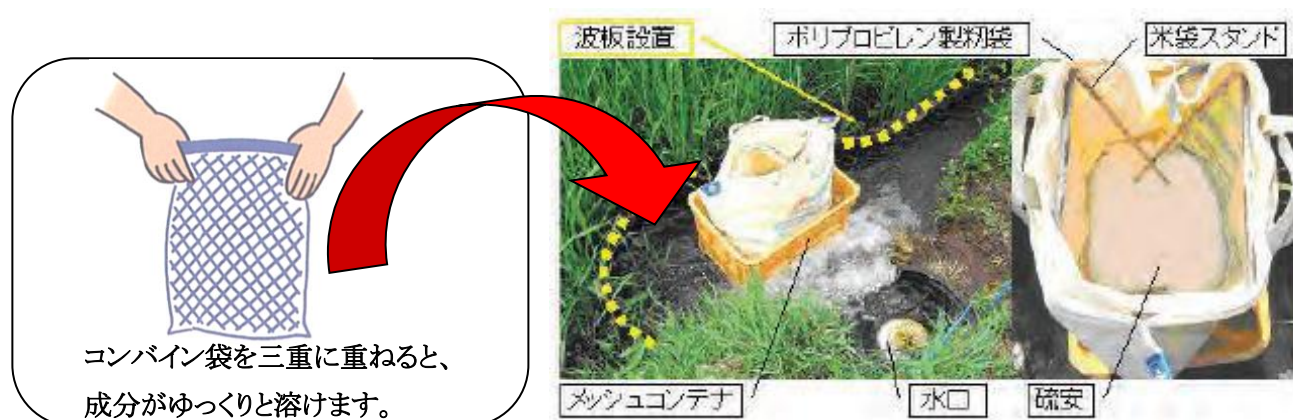


図1 コンバイン収穫用籾袋を用いた流入施肥法 (関谷)

- ④ 施肥後の水深確保: 施肥後も灌水を続け、水深が水口で4～5cmになったら止めます。深水湛水は肥料溶液を均質化するのに役立ちます。
- ⑤ 施肥後数日間は落水を避ける: 肥料溶液の均質化と土壌吸着には3～5日間かかり、施肥数日後の田面水には肥料が溶けて残っていますので、早く落水してはいけません。早く落水すると肥料の損失や環境汚染をもたらします。
- ⑥ 農薬との併用: 農薬との併用は避けます。

(5) 流し込み施肥に適した肥料

品名	規格 (kg)	形状	保証成分 (%)
硫安	20	大粒	21-0-0
尿素	20	粒	46-0-0
塩化加里	20	粉	0-0-60
くみあい液肥2号	20	液体	10-4-8

(6) コスト削減効果 (JA 全農試算)

	流し込み施肥 (例)	慣行追肥
肥料	尿素・塩化加里	NK 化成肥料
追肥にかかる時間※1	3.3 分/10a	13 分/10a
肥料費 (指数)※2	79	100
その他物財費	流入にかかる資材	動力散布機

※1 古川農試での流し込み施肥試験事例による (尿素24kg・NK化成26kgの溶解時間を参考)

※2 窒素・加里を2kg/10a施用した場合の参考価格より試算

除草剤を活用した畦畔管理の省力化について

6月は梅雨入りを迎え、一雨ごとに雑草がみるみる大きくなります。水田畦畔雑草を放置しておくと、匍匐性の雑草(イボクサ、アシカキなど)は茎を伸ばし、次第に水田内に侵入してきます。水田への侵入を許すと防除が難しく、水稻の生育に悪影響を与えるほか、稲刈りの妨げにもなります。

また、水田畦畔のイネ科雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となるため水田への飛び込みが増加し、農薬を散布しても被害を抑えきれない場合もあります。

畦畔を適正に管理するためには、雑草が繁茂しないよう年数回の草刈りをおこなう必要があります。特に梅雨から夏の時期の草刈りは、雨や高温による作業性の悪化からかなりの重労働となります。

これらの問題を解決する一つの方法として、除草剤・抑草剤を活用した省力的な畦畔管理作業体系をご紹介します。

(1) バスタ液剤

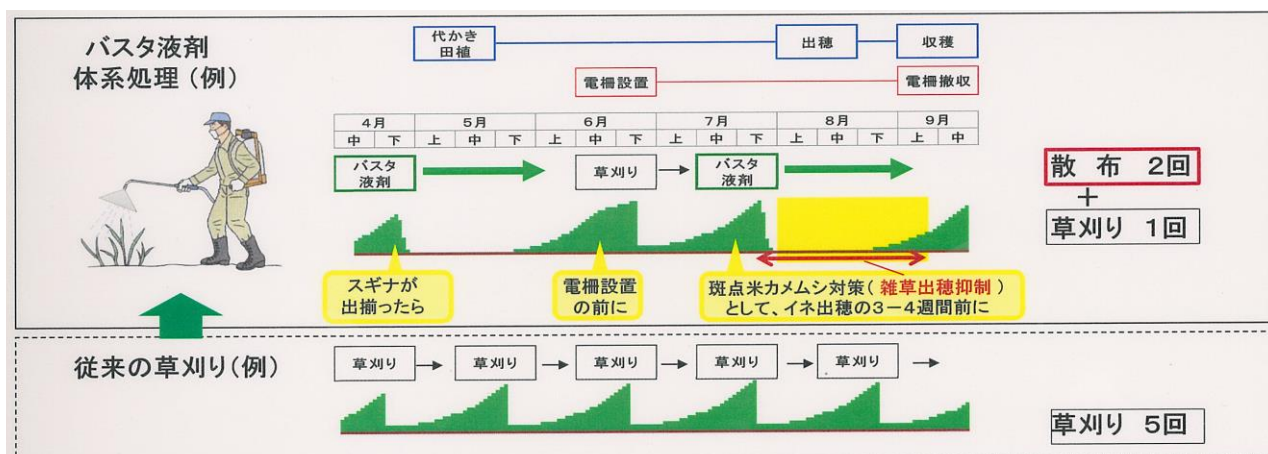
茎葉処理除草剤の代表的な品目であり、水田畦畔には100～200倍(水100Lに500ml～1L)に希釈して使用します。

散布後、有効成分は地上部のみに作用し、ラウンドアップマックスロードとは違い、根までは枯らしません。効果の発現が早く、条件にもよりますが、散布後約2日頃から効果が現れます。

バスタ液剤は、浸透移行性がなく付着した部分しか枯らさないため、雑草の根が適度に残り、水田畦畔の強度をある程度保つことができます。このため、バスタ液剤は電気柵の下草防除に有効です。

このような悩みには、バスタで雑草防除!

- ① 畦、のり面を崩しにくい除草剤です。
- ② 電線に対してほとんど影響がありません。
- ③ 野菜畑や果樹園など、登録作物が多い。
- ④ 散布後2～3日程度で速効的に効果が現れ、40日程度抑草します。

(2) グラスショート液剤

グラスショート液剤は、「除草剤」ではなく「抑草剤」として登場しました。

雑草の茎葉部から吸収され、チガヤなどの多年生イネ科雑草やスギナ、ヨモギなどの多年生広葉雑草に対して、成長を長期間抑制します。

また、一年生の広葉雑草やギンギンなどには枯殺効果を発揮します。

非選択性除草剤のように雑草を完全に枯殺する作用とは異なり、雑草の成長を抑制する作用のため、裸地化による土壌流亡を防ぎ、景観を保持します。重労働で危険を伴う水田畦畔、のり面(傾斜地)の草刈り作業の回数を軽減できます。

キシウスズメノヒエ、イボクサなどの畦畔からの侵入雑草に対しても効果があり、イノシシの餌にもなるやっかいなクズにも強い枯殺効果があります。

【クズの防除方法】

方法1:

桜の開花期以降に萌芽を始め、梅雨時期頃までは緩慢に伸長します。生育初期(クズの草丈:0.5~1m程度)なら刈り取りをせず茎葉部が十分濡れるように散布してください。

方法2:

7月下旬~8月上旬にクズを刈り取り、再生初期(草刈り5~7日後、草丈50cm程度)に茎葉部が十分濡れるように散布してください。

方法3:

貯蔵物転流期(9月~11月上旬)にクズを刈り取り、再生初期(草刈り10~15日後、草丈30~50cm程度)に茎葉部が十分濡れるように散布してください。

方法4:

つる処理の場合は、生育初期(5~6月)に全ての茎葉が十分濡れるように散布してください。

**イノシシはクズの根を食べにやってきます。
クズを枯らして、イノシシの餌場を減らしましょう。**



使用前



使用後

